

とり村回覧板

Vol.
30

2022年 冬号

認定NPO法人TSUBASA
「人・鳥・社会の幸せのために」
tel.048-480-6077
www.tsubasa.ne.jp
埼玉県新座市中野2-2-22

【チリ】@セキセイインコ

チリは、とある真夏の暑い日にTSUBASAへやってきた総勢12羽のセキセイのお父さんで、いわゆるビッグダディです。長年連れ添った奥さんと女の子1羽は元のお家で暮らしているため、離ればなれになってしまいましたがTSUBASAで残り子どもたちと元気に暮らしています。子どもたちは一羽を除いて、みんなチリ似の黄色いボディです。その黄色いボディが「カレーっぽい。」とい



うことから、一羽ずつスパイスにちなんだお名前がついています。元々は放し飼いで、あまり人に慣れていない子が多いですが、チリは手に乗ることができます。現在は、同じケージで暮らすミント、ローリエと一緒にトレーニングも頑張っています。本誌でもチリの子どもたちと引き取りの様子をご紹介します。ご興味をお持ちいただけましたら、1~4ページの記事もぜひご覧ください。

TSUBASA

「The Society for Unity with Birds – Adoption and Sanctuary in Asia」
(鳥と調和のとれる社会 – アジアの里親とサンクチュアリ)

TSUBASAは「人・鳥・社会の幸せのために」を理念に
レスキュー活動をする団体です

TSUBASAは、インコ・オウム・フィンチと暮らす全ての方、そして動物愛護に関心をお持ちの方に対してより良いバードライフのご提案と適正な飼育のための啓発活動を行っております。

また、様々な理由により手放されてしまった鳥たちを引き取り(里子制度)、新しい飼い主さんを探す(里親制度)活動を行っております。

回覧板を設置して くださいませんか?

広く、皆さまに活動を知っていただく事を目的とし本誌を発行しております。回覧板を設置して下さる団体様、施設様を随時募集しています!



CONTENTS

Vol.30

- 103羽の文鳥レスキュー..... 1
- 最近1年間のTSUBASAのレスキュー事情... 3
- 感染症について..... 5
- 吐き戻し..... 6
- 2021年鳥の出入り他..... 7

103羽の文鳥レスキュー

2021年10月に、計103羽の文鳥レスキューの対応を行いました。



や経緯から、私たちの介入を拒んでくるかもしれないと身構えましたが、意外にも視察の許可をすんなりと受け入れてくれました。

聞いていた印象と違い穏やかな方で、鳥が好きな普通の人という印象でした。そして今回の騒動について、このような状況になってしまい、申し訳なさや、恥ずかしいといった気持ちを感じ取りました。

【現場の様子】

- ・文鳥たちは基本放し飼い：ほとんどは部屋中を飛び回るほど元気だが、全身の羽が抜けて飛べない子や、荷物の隙間でうずくまる子など、健康状態が悪そうな子も少なからずいる
- ・部屋全体から漂う強烈な臭い
- ・部屋一面に数cmは積もった糞便
- ・餌や水は継ぎ足し：異臭を放ち、そこに夥しい数のゴキブリとハエが群がる
- ・窓やカーテンを閉め切った、薄暗く換気されていない環境
- ・今にも崩れそうな荷物の山で溢れている：隙間にいる子が埋もれてしまわないよう、慎重に動く必要があった

鳥はもちろんのこと、人が生活できる環境とは思えませんでした。飼い主様にお話を伺ったところ、20年ほど前から飼育しており、こままで増やしてしまったとのことでした。飼い主様も高齢で、この羽数というもあり、個人で里親を探すことは難しいとのこと。

ご相談

7月初旬：関東にある集合住宅の管理会社からのご相談

管理している賃貸で文鳥を推定100羽飼育されている方がおり、室内で放し飼いをしているため、臭いや害虫でトラブルとなっている。3年前からこのような状況で、ついに裁判にまで発展し、強制退去を通告されたとのことでした。

飼い主様はご高齢の方で、ご自身で里親を探すのは難しそうなので、鳥たちをどうにかできないかとのことでした。ただ、管理会社は3年前に部屋を訪問したのが最後とのこと、現在がどのような状態かはわかりませんでした。

まずは状況を知る必要があったため、視察の申し出をしました。しかし、飼い主様から部屋に入ることは管理会社も門前払いされており、難しい状況でした。

飼い主様や鳥たちの状況が心配だったものの、この時点では何も動くことができませんでした。

状況確認

9月29日：現地の状況視察

強制退去にあたり、飼い主様に催告を実施するとのこと、TSUBASAも同行させていただくことになりました。

裁判所の方等が立ち入ることになるため、その際に飼い主様と直接会って話すことができないかと考えたためです。まずは裁判所の職員らの立ち入りの後に、飼い主様にお会いすることができました。

飼い主様はお一人暮らしのご高齢の方。管理会社の方からの情報



現場の様子。6畳ほどのスペースに文鳥たちが放し飼いられていました。



103羽の文鳥レスキュー



文鳥たちを捕獲している様子。



ただこの時点で初めて知ったのですが、この件について管理会社は、管轄の愛護センターにも相談していたようでした。

実際、飼い主様の代わりに里親掲示板に掲載するなど、里親探しのお手伝いをされていたようでした。

そこで現場の視察を終えた後、動物愛護センターへ赴き、お話を伺ったところ、担当者の方は数ヶ月前から毎週1回は飼い主様と会ってお話されていたとのことでした。

最初は飼い主様も頑なな様子で門前払いもされていたのですが、次第に心を開いてくれるようになり、部屋にも入れるようになったとのことでした。

また、飼い主様は当初、一部の鳥を残したいというご希望があったようですが、全ての鳥を手放すべきではと説得もいただきました。

飼い主様ときちんと話し合うことができたのは、この愛護センターの方の献身的な対応のおかげでした。

10月14日:2回目の現場訪問

この時には強制退去の執行日が10月末に決定しており、実施される前にレスキューを行う必要がありました。この日は愛護センターの方にも同席いただき、飼い主様とも相談した結果、10月21日にレスキューを行うことを決定しました。

レスキュー

10月21日:レスキュー当日

TSUBASAの職員4人(松本、望月、越阪部、柴)で対応しました。捕獲作業の結果、合計97羽の文鳥が捕まりました。家具の隙間に隠れている子が後日出てくる可能性があったため、飼い主様や愛護センターの方に様子を見てもらうことをお願いし、この日は施設へ戻りました。

10月26日:隠れていた文鳥の受け入れ

隠れていた文鳥が6羽出てきたとのことで受け入れました。これにより、合計103羽のレスキューとなりました。

鳥たちの様子

施設に到着後、獣医による健康チェックを行いました。

糞便による総排泄孔周囲の羽の汚れが目立つ子が多く、胸部や翼までが汚れている子もいました。

未消化便を排泄している子も多く、体調が悪化しプラスチックケースで看護が必要となった子もあり、全羽元気に過ごしていますとはご報告出来ないのが現状です。

その他、白内障や眼科疾患、腹壁ヘルニア、腹部腫瘤、脱羽、趾の欠損等が認められました。

糞便検査は、ボランティア獣医師にもお手伝いいただき実施しました。糞便からは、マクロラブダス、コクシジウム、コクロソーマ、カンジダ、線虫卵等が検出されました。→P5参照

全羽一斉に投薬となり、さらに各々効薬も異なるため、今まで作成した事が無い程の薬の量になりました。



今回のレスキューについて

今回のレスキューは、環境としては過去最悪でした。

最初はどうしてこんな状態になるまで放置していたのかと、憤りを感じました。しかし蓋を開けてみると、飼い主様も普通の愛鳥家のお一人でした。実際現場に積み上げられた山の中には、文鳥の飼育本なども多く見受けられました。

飼い主様としても、誰にも頼ることができず、どうしたら良いのか分からなかったのでしょう。もちろん文鳥たちからすれば許されないことですが、飼い主様と接していくうちに、本当にどうしようもなかったのだらうとも感じました。

そして、愛護センターの方の、心に寄り添う対応のおかげで、

この103羽を救い出せたと言っても過言ではありません。

信頼関係を築きながら向き合う姿勢は、学ぶことも多く、今後のレスキューに役立てていきたいです。

もちろん、このようなレスキューがない世の中にしていかなくてもなりません。今後も情報発信、啓発活動に努めてまいりますので、皆様とも情報を共有できたら幸いです。

そして、今回のレスキューの報告後、大変多くの方からご支援をいただきました。

この場をお借りして心より御礼申し上げます。



最近1年間のTSUBASAの レスキュー事情



緊急レスキュー

オオバタン2羽
オオキボウインコ1羽
ボウシインコ1羽

飼い主様が亡くなり、鳥たちが残されていると知人の方よりご連絡。飼い主様が亡くなってから時間が経っていたためTSUBASAへ緊急レスキュー（詳しくは下記の二次元コードから）。



緊急レスキュー

文鳥103羽

自宅で増えてしまった。飼育状況が悪く、害虫などが問題で近所から苦情がきてしまい裁判になり、強制執行となり、文鳥の行先が無くなってしまったためTSUBASAへ緊急レスキュー（詳しくは→P1-P2）。



緊急レスキュー

コウロコボウシ1羽
ゴシキセイガイインコ1羽

ご高齢の飼い主様が飼われていたが自宅で倒れ、元々3羽いたが1羽亡くなり、2羽は一週間放置されていた。飼い主様はお世話に戻る事が難しいためTSUBASAへ緊急レスキュー。



準レスキュー

セキセイインコ15羽

ご高齢の飼い主様が飼われていて、放し飼いのため増えてしまい、ご自身ではどうしようもなくなりました。緊急性は低いが、生活保護も受けられていたため費用のご負担は難しく、準レスキューに（詳しくは→P4）。

レスキューの流れ

依頼・相談

お世話ができない・鳥の命が危ない!?

他の人が世話

事前に検査・検疫室の準備
検査結果が出てから引き取り

緊急の受け入れ

協議・判断
・直接現場に行くことも

レスキュー

レスキュー後のお世話

・鳥の情報は不明
・消毒を徹底

引き取り代・検査代は
TSUBASAが負担
支援の呼びかけ

元気なうちからもしもに備えよう

最近のTSUBASAの引き取りの傾向として、緊急性があるレスキューが多いという印象があります。通常の引き取りに関しても、生活保護などを受けられている方などからのご相談が多く、本来お支払いただく費用が全額は難しい、払えない、という事も多かったです。鳥の命には替えられません。今回の文鳥のレスキューでは、皆さまにご寄付をいただきご協力いただいたおかげでたくさんの命を救う事ができました。本当にありがとうございました。私たちの使命は、鳥たちを保護し、お世話する事はもちろん、この先このような不幸な命を増やさないよう、放し飼いのリスクや国際希少種について事前に準備できる事などの啓発活動を通して、今まで以上に皆さまにお伝えすることと考えております。「うちは大丈夫」とお考えの方もいらっしゃるかもしれませんが、そんな事はありません。明日は我が身という言葉もあります。飼い主と鳥、共に元気なうちから「もしも」の時の対策をすることをお勧めいたします。

セキセイインコ 15羽 準レスキュー



緊急性はそこまで高くなくとも、費用はご負担いただくことが難しく、「準レスキュー」となった事例がありました。



7月ごろ、お一人暮らしのご高齢の女性からTSUBASAにお電話がありました。ペットショップからお迎えしたセキセイインコを放し飼いで飼っているが、羽数が増えて困っている。お迎えして約2年でここまで増えてしまった。ご自身では放し飼いの鳥を捕まえることができないとの事でした。



実際には、17羽のセキセイインコのうち、5羽は放し飼い、残り12羽はケージで飼われていました。そのうちメス2羽は飼い主様のご要望でお引き取りはしませんでした。

鳥たちは、飼い主様にうかがったところ、皆チリの子どものようです。名前はスタッフが付けました。スパイスシリーズです！あまり人に慣れていない子が多いのですが、まだ皆若く好奇心旺盛です。里親会にも参加しています。

この子たちにもいいご縁がありますように！

引き取った セキセイインコたちの 里親募集中



アニス・ナツメグ・タイム



チリ・ミント・ローリエ



セージ・ディル・クローブ



ガラム・マサラ・マリー



レモンラス・パプリカ・クミン

— 準レスキューを終えて — 「放し飼い」は危険がたくさん

飼い主様は鳥がお好きな方で、ごはんやお水、青菜などもあげていて、鳥たちが自由に飛び回り各々が自由に過ごせる飼い方をしてあげたかった。とおっしゃっていました。

話をいただいた当初は、「なぜ放し飼いで飼うのだろう」「無責任だな」とも思いましたが、飼い主様のお話を聞いていると、これも愛情の一つの形なのだと思います。

今回はこのような形で準レスキューとなってしまいましたが、飼い主様からご連絡をいただかなかっただけで、これ以上の羽数になり、大がかりなレスキューになっていた事でしょう。

もちろん飼い主様ご本人にも責任はあると思いますが、購入先

のショップさんにも説明不足といった責任はあると思います。ご連絡をくださった飼い主様の勇氣に感謝いたします。引き取る際に飼い主様は何度も「ありがとう、ありがとう、」と頭を下げてくださいました。

確かに放し飼いにはメリットもありますが、それ以上に今回の様なことや、事故などのデメリットの方が多くあります。

今回の引き取りを終えてそれを改めてこの身に感じました。放し飼いで飼われている方は少なからずいらっしゃると思いますので、今回の事を踏まえさらに放し飼いについてのリスクなどを皆さまにお伝えできればと思います。

レスキュー文鳥さんの
糞便から検出された

感染症について

今回レスキューされた文鳥さん達は消化器症状を呈している子が多く、かなり進行して治療が困難と感じる子もいます。感染症のなかには、症状が現れる前に治療を開始した方が予後が良いものも多く、環境変化によるストレスから潜んでいた病気が発症する場合があります。新しく鳥さんをお迎えした時は動物病院で健康診断を受ける、先住鳥がいる場合はすぐに一緒にせず検疫期間を設ける事の大切さを痛感する事例でした。

マクロラブダス症

多くの鳥類で感染の報告がありますが、セキセイインコやキンカチョウ・マメルリハインコ等では重篤な障害がみられ、オカメインコ等では幼弱鳥や免疫低下個体で障害が、ブンチョウやラブバード等は病状を呈するのは稀だと考えられています。

しかし、今回レスキューされたブンチョウたちは、複合感染によるものかもしれませんが病状を呈している子が多いように思います。

雛への給餌や求愛性給餌、吐物の摂食により伝播します。前胃と筋胃の中間部(中間帯)に生息し、嘔吐・食欲不振・黒色便等の胃炎症状や粒便・下痢・削瘦等の消化不良、そのうでの餌水の停留等の通過障害を引き起こします。

治療は抗真菌剤の経口投与ですが、薬剤耐性株であった場合は注射による治療となります。その他症状に合わせた対症療法が必要になる場合もあります。

予後は病状の進行具合、耐性株の有無により異なります。

胃障害が不可逆な場合は予後不良です。

また、便中に排泄されず消失したかに思わせて潜伏・再発する場合がありますので、投薬終了後も定期的な検査が必要です。



回虫症

中型オウム類で検出される事が多いですが、様々な種に寄生します。

小腸粘膜に感染し、少量寄生では無症状の事もありますが、下痢や血便、消化吸収不良、体重減少などがみられます。

大量に寄生している場合は虫体による閉塞で亡くなる場合があります。

治療は駆虫薬の経口投与になります。大量に寄生している場合は死虫による閉塞が懸念されます。

コクシジウム症

ブンチョウやフクロウ類から検出されます。

発症は免疫力に左右されると考えられ、一般的に免疫の低い雛が発症します。糞便の摂食により伝播します。

無症状の場合もありますが、コクシジウムの増殖に伴って粘液を含む淡褐色～赤褐色の軟便や、腸炎に伴う腹部の膨大がみられることがあります。

ごく稀に致死的な急性の血便を起こすこともあります。

環境や薬剤に対する抵抗性が強いので、熱湯消毒が家庭では最も有効です。熱湯消毒できない物はよく洗浄し天日乾燥します。



胃虫症

オウム類からの検出は稀ですが、ブンチョウにみられる事があります。

単独感染では無症状又は軽症ですが、二次感染により重篤化し、前胃への寄生では嘔吐・黒色便などの胃炎症状、筋胃への寄生では消化不良による粒便が生じると考えられています。

治療は線虫駆除薬を使用しますが、やや困難だと言われています。



コクロソーマ

ジュウシマツなどフィンチ類でみられます。

ごく稀に軟便や下痢の症状がみられる可能性があります。治療は抗原虫薬の経口投与で比較的容易に駆除できます。

気持ち悪さ
由来の

発情由来の

「吐き戻し」

鳥たちが食べ物をお口から出してしまふ【吐き戻し、吐き気】は、大きく分けると病的な物とそうでないものがあります。

「食べ物がお口から出てくる、出そうとする」という動作は同じなのに、意味の全く異なってくる

気持ち悪さ由来の「吐く」と発情由来の「吐く」について考えたいと思います。



◎吐き気(嘔吐動作):食べ物はお口から出ないけれど首を上下に動かして出そうとする状態

◎吐き戻し:首を上下に動かして、実際にお口の外に食べ物が出てきてしまう状態

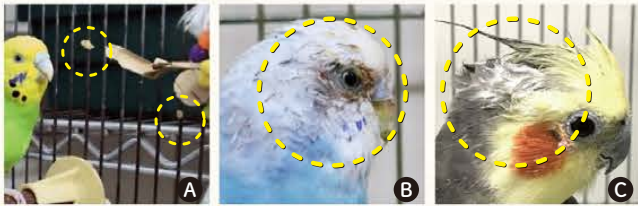
吐き気・吐き戻しを見極めよう

①②③を見極めて、通院をするのか、様子を見るのか、発情に対して対策を取るのか選択肢が異なります。

※全てが当てはまらない事もあります。心配なときは病院へ!

	①体調不良(病気を疑う) 気持ち悪い!時の吐き気・吐き戻し	②一時的な吐き気 一時的に気持ち悪い!時の吐き気・吐き戻し	③発情・ウキウキ♪(発情行動) 吐き気・吐き戻し(別名:プレゼント、ラブゲロ等)
吐く理由	病気が根底にあったり、中毒症状などが疑われる場合。繰り返していたり、その後ぐったりすることも多いです。脱水の危険、食欲低下、食べても全て吐いてしまう等が起きると次第に痩せていくため通院を検討する必要がある状況。頻繁にあくびのような状況を繰り返すこともあります。	「食べ物がお喉にひっかかった〜!」「マズイ物食べちゃった!?」「緊張したら気分が悪い…」そんなときにも、吐き気をもよおすことがあります。TSUBASAではこういう時は、嘔吐の動作だけで食べ物はあまり外に出てきません。一時的でその後は、ケロリとしていることが多いです。継続的な時は「①体調不良」を疑います。	元々は食べ物を吐き出して、発情対象やヒナに食べ物を与える行為。発情する対象物があると1羽飼いでもする行動です。オスによく見られる行動ですがメスでもすることがあります。
吐く時の動作	・首を上下に動かした後、横振り ・激しく飛び散る ・どこでも行う事がある ・繰り返す 	・「①体調不良」に似ているが、1度のみ	・首は縦振りのみ ・目標物に向かって吐き出す 
特徴	・食べた物が辺りに飛び散る(写真A) ・場所等を選ばず吐く ・食欲(-)元気(-) ・ぐったりする ・頭頂部やお口周りに付着する(写真B・C)	・吐いた後スッキリということもある ・一時的で繰り返さない ・前後から理由が推察できる(緊張、食べ物にむせた等)	・吐いた物は1カ所に固まる(写真D・E) ・食欲(+)元気(+) ・テンションが高い(おしゃべりや興奮) ・吐く時間/場所/対象物が決まっている

動画で、TSUBASAの鳥の吐き気を見比べてみよう

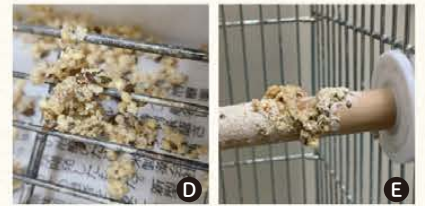


気持ち悪さで吐くと激しく首を横に振るため、壁や頭部に不規則に食べた物が飛び散ります。頭頂部付近に粘度の高い餌や液体がつくこともあります。

動画1
気持ち悪いとき



動画2
発情しているとき

発情の場合は、止まり木や床の1カ所にボトリとまとまって嘔吐物が落ちていることが多くあります。

吐き戻しQ&A



Q.発情の吐き戻しの対象になるのはどんなもの?

Answer→TSUBASAでは、過去こんな「プレゼント」が..

- 相方の鳥さん(♂♀問わず)
- 鏡
- 自分の足、翼
- 動画2
- お気に入りの止まり木、プランコ
- オモチャ
- 人間(顔、耳、指先などパーツのみの場合も)→動画2
- ケージの格子(1カ所に固執)

Q.吐いた後に、「吐いた物だけ」で原因を見分けるには?

Answer→気持ち悪さと発情では、吐いた後にも違いがあります

気持ち悪さ由来	ケージの壁面や鳥の頭部、床などに不規則に飛び散っていたら、気持ち悪さから激しく首を横に振った可能性が高い 
発情由来	1カ所に固まって吐いていたり、毎回同じ場所だと発情からくる吐き気の可能性が高い 

Q.心配で病院に行く時、何を医師に伝えたら?

Answer→以下の内容を正しく伝達することが大切だと思います

- ①いつ、どこで、どんな風に吐くのか(規則性はあるのか)
- ②体重の推移
- ③吐いている時の動画を念のため録画
- ④吐いた物はどんな状態か
- ⑤便の状態
- ⑥他の異常は無いか
- ⑦発情はしているか

なかなか初見では、治療の対象となる吐き気なのか違うのか判断は難しいかもしれませんが、心配であれば、まずは病的な理由を疑って健康診断に行くのが安全です。病的な理由を探った上で健康上の問題が見つからなければ、発情行動と推測するのが最も安心できる方法だと思います。普段からおうちの鳥を観察できる皆さまが、正しい情報を獣医師に伝えることが大切です。

2021年1月～11月 鳥の出入り

受け入れ羽数

146羽

今年は通常の引き取りに加え、セキセイ15羽の引き取りや文鳥103羽のレスキューなど、施設に入ってくる鳥さんが多い一年となりました。

文鳥レスキューの際は皆さまからのたくさんのご寄付もあり、TSUBASAがどれだけの方々に支えられているのかを改めて実感する機会にもなりました。

ご寄付いただきました皆さまに、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。



里親制度について
詳しくはこちらから！



里親決定数

26羽

例年に比べ、まだまだ思うように里親会を開催できない中、おかげさまで26羽もの鳥さんたちが新しい家族の元にお迎えされました。

このコロナ禍ですが、鳥たちの不安を取り除くため、お迎え前に何度も足を運んでくださった方もいらっしゃいました。里親になってくださった皆さま、本当にありがとうございます。



新入職員ご紹介



皆さま、初めまして佐藤忠行と申します、よろしくお願いたします。仕事で動物に関わった経験はありませんが、特に鳥が大好きで、子供の頃から様々な鳥を飼ってきました。また、地域猫の保護活動を行っており、動物保護活動に関心があります。

以前よりTSUBASAの活動に興味があり、清掃のパート職員に応募、後に飼育の正規職員として採用されました。これからはより責任ある仕事をこなせるよう日々努力を重ねたいと思っております。



皆さま、初めまして。9月16日よりTSUBASAに入社させていただきました、大西綾と申します。以前は、動物園やペットショップに勤めていました。

家では、モルモット1匹とハムスター3匹を飼育しております。精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【重要なお知らせ】

2022年1月現在、新型コロナウイルス感染防止対策として、施設開放を中止しております。鳥たちの見学等ができませんので何卒ご了承願います。最新の情報はHPをご覧ください。

TSUBASA 公式サイト▶ www.tsubasa.ne.jp

認定NPO法人 TSUBASA 埼玉県新座市中野2-2-22

【Tel】048-480-6077 【Fax】048-480-6078 【e-mail】tsubasa0615@gmail.com

【発行元】認定NPO法人 TSUBASA
松本壯志 / 涌井智美 / 望月健人 /
戸島万記子 / 越阪部正文 /
城ヶ崎裕海

【発行】2022年1月

次回発行は2022年8月予定です。

誌面の情報は発行日現在のものです。
情報に変更が生じる場合がございます
のでなにとぞご了承ください。